

社会教育委員会等研修会報告

2018. 6. 22

新潟市社会教育委員 笹川博人

1. 研修 I 講義 (10:30 ~ 12:00)

会場 長岡市中央公民館

テーマ 「社会教育委員の役割と全国大会招致の意義」

講師 坂本登 (前(一社)全国社会教育委員連合常務理事)

- ① 市道存続組織の設立の経緯 538年6月1日(月)全国に設立
新潟県は11番目 538年11月18日設立
- ② 全国社会教育研究大会の推移 第16回(549年10月)が
全国社会教育委員研究大会と存続。これ以下の成果として
 - 1. 社会教育委員の一体感の高揚
 - 2. 社会教育委員の認知度向上 (= 見え文化)
 - 3. 成否の判断行政とのコラボレーション
- ③ 社会教育委員が社会教育委員であるために
 - 1. 制度の意義と特徴 (住民主体 地方権 独立制 報酬面の充実)
 - 2. 社会教育の原理・意義の必要性 (学習活動と健康 学習活動と
スポーツと学習活動)
 - 3. 社会教育委員(会議)の実践事例 (秋田市 国谷市 宮崎県等)

2 研修 II 事例発表とワークショップ (7-11日) 13:00 ~ 15:00

事例発表 「出雲崎町の社会教育について」

講師 石塚部友記氏 (出雲崎町社会教育委員長)

562年の歴史 街並み保存活動の一環として、夏休みに県立美大生を招き、
 歩いての 街並み歩きツアーを合宿で行った。昨年までの回数を加え、
 スケッチ画集の版を作成した。又この地でも夏休みの地であり、良寛
 さんの人柄も考え方をとも学ぶ「良寛学習」を小学生から中学生までの9
 年間かけて行っている。学習内容は小学校では「良寛工作と人形」、中学
 生では「良寛の口をなぞる」をテーマに学習しているとのこと。

ワークショップ「とんぼ全国大会を新潟から発信できるのか？」

7月~7月4. 5. 6. 7. 8. 日 参加者 約20名
 7月~7月4. 5. 6. 7. 8. 日 参加者 約20名
 ワークショップを企画し実行。私の属するグループでは「開会演説のトコナ
 とエビ」講演会の人選に難関あり、「新潟らしい全国大会とは？」などの
 テーマで話しあわれたり、時間の制約もあり、かなり深い議論がなされた。
 なお、事前準備の負担を軽減して子ども委員が主体で今後の発展とつながる。

終わりの身振りとして坂本登氏が「社会教育活動は、商工会、農協の青年、婦人
 部や青年会議所、ライオンクラブ、ロータリークラブなどの活動が中心で
 いる。そういう方々との連携が社会教育委員の活性化につながる。この指
 針は、組織として3つある。1. 社会教育委員会の役割」